

## 麻酔科

### 1. スタッフ（平成27年4月1日現在）

科 長（教 授）	竹内 護 （子ども医療センター兼任）
外来医長（准 教 授）	五十嵐 孝（中央手術部兼任）
医 員（准 教 授）	多賀 直行 （子ども医療センター兼任）
医 員（学内准教授）	門崎 衛 （子ども医療センター兼任）
医 員（講 師）	堀田 訓久 （講 師）佐藤 正章 （講 師）丹羽 康則（中央手術部兼任） （助 教）茂木 康一 （JCHOうつのみや病院派遣） （助 教）平 幸輝 （助 教）清水かおり （助 教）大塚 洋司 （子ども医療センター兼任）
病院助教	永野 達也 （子ども医療センター兼任） 中村 文人 （子ども医療センター兼任） 篠原 貴子 島田 宣弘 玉井 謙次 岩井 英隆 （子ども医療センター兼任） 永川 敦士 方山 加奈
シニアレジデント	18名

### 2. 特徴

2014年、当院では中央手術部および子ども病院手術室において、年間8,914件の手術を行った。当科は6,989件に及ぶ多彩な手術および検査の麻酔管理を担当している。その内約21%（2014年では1,491件）を緊急手術が占めており、栃木県のみならず茨城県南西部・埼玉県北部・福島県や群馬県の一部など北関東一円からの急患に24時間対応している。

手術内容・患者背景はともに多彩であり、心臓・大血管手術や呼吸器外科だけでなく、国内で有数の症例数を誇る小児生体肝移植にもチームの一員として参加している。

また、手術麻酔だけでなく、術後の鎮痛対策にも力を入れており、機械式ポンプを用いた自己調節鎮痛や超音波ガイド下神経ブロックを積極的に取り入れている。ま

た手術室外の活動として、ペインクリニック外来や緩和ケア病棟での疼痛治療、手術室外検査・治療の出張麻酔や鎮静も担当している。

中でも、先端医療として硬膜外腔内視鏡（エピドラスコピー）による腰下肢痛治療の症例数は全国一を誇っている。また、鍼灸外来を開設し東洋医学的アプローチにも積極的に取り組んでいる。

#### ・施設認定

日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
日本ペインクリニック学会指定研修施設  
心臓血管麻酔専門医認定施設

#### ・専門医

厚生労働省麻酔標榜医	竹内 護	他28名
日本麻酔科学会認定医	竹内 護	他28名
日本麻酔科学会専門医	竹内 護	他21名
日本麻酔科学会指導医	竹内 護	他9名
日本ペインクリニック学会専門医		
	五十嵐 孝	他2名
日本集中治療医学会専門医	竹内 護	他2名
心臓血管麻酔専門医	竹内 護	他2名
日本蘇生学会蘇生法指導医		五十嵐 孝
日本救急医学会専門医	五十嵐 孝	他2名
日本小児科学会専門医		中村 文人
日本周術期経食道心エコー認定医		
	多賀 直行	他2名
American Society of Anesthesiologists, member		
	竹内 護	他1名
International Anesthesia Research Society, member		
	竹内 護	他1名
European Association of Cardiothoracic Anaesthesiologists, member		
	竹内 護	
The Society of Critical Care Medicine, member		
	多賀 直行	

### 3. 診療実績・クリニカルインディケーター

#### 1) 新来患者数・再来患者数・紹介率

新来患者数	76人
再来患者数	5253人
紹介率	53.6%
手術患者外来術前診察	5731人
鍼灸外来	389人

2) 入院患者数

硬膜外洗浄ほか 8人

3) 麻酔患者数

全身麻酔（硬膜外麻酔併用を含む）	6287件
脊椎麻酔（硬膜外麻酔併用を含む）	990件
伝達麻酔その他	24件

4) 化学療法症例・数

なし

5) 放射線療法症例・数

なし

6) その他の治療症例・数

なし

7) 主な処置・検査（麻酔科外来）

星状神経節ブロック	97回
三叉神経ブロック	28回
硬膜外ブロック	387回
トリガー注射	208回
その他のブロック	193回
鍼	389回
透視下各種ブロック	19回
スーパーライザー等	1065回
点滴	224回
その他の処置	17回

8) カンファランス症例

手術患者術前カンファランス	242回
手術患者術後カンファランス	242回
外来新患カンファランス	4回
新臨床研修医向け講義	32回

4. 事業計画・来年の目標

- ・労働条件の健全化 中央手術部における麻酔科管理の手術件数に対する麻酔科標榜医、専門医の不足が持続している。過重労働により就労意欲の維持に障害を生じ、職員の健康への不安も増加している。来年度は労働条件の健全化が患者安全管理の基本であることと病院全体で認識し就労状態の正常化が望まれる。各職員が希望を持って患者様の期待に応じて働く事の出来る就業環境へ整えていきたい。
- ・栃木県内の医療の充実を図るべく今後とも努力していきたい。